

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

B U N K A T S U S H I N

2024夏 No.122



東谷農村歌舞伎・祇園座

讃岐には、現存する農村歌舞伎が白鳥や小豆島も含めて4つもあります。今回は香川町東谷の原動力。縁の下の力持ちの鎌田直子さんをご紹介します。祇園座の歌舞伎を若い人たちに伝えるべく、公演の為に台本の準備や、各種稽古の段取り。衣装の手入れなど、陰に表に八面六臂の大活躍。理事長のとなりを支えるべく奔走する日々を楽しむ頼もしい女将さんです。

- 茶室 de 若人茶会
大手前高松中学・高校茶道部／高松商業高校茶道部
- 令和5年度助成金事業 SAJYO-ROUKAKU
- 6月から8月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212
2024年夏号 No.122 6月1日発行(季刊)

茶室 de 若人茶会

とき 令和6年3月10日(日)

処 美藻庵・晴松亭

席主 大手前高松中学・高校茶道部

茶道部・部長 香西陽愛

この度は若人茶会に大手前高松中学高等学校・茶道部としてお茶会を開催させて頂き、心より感謝申し上げます。

久々にお茶会を開催することになり、私は強い緊張感に包まれましたが、いつもと違う茶室・道具を使いお手前をできるということにとってもワクワクしていました。

美藻庵・晴松亭での催しは、私たちにとって貴重な経験になり、大変意義深いものでした。

まず、美藻庵・晴松亭に広がる和の空間に心が引き込まれました。庭園の踏石や青々とした苔、植栽は春の息吹を感じられ、躰口から茶室までの時間すらも心が癒されるものとなりました。校内の茶室とはまた違った、より本格的なお茶室の中でのひとときは、まるで別世界に身を置いているようでした。

お軸やお花が飾られた床間が美しく、窓から差し込む柔らかな光のあたたかさを今でも覚えています。

お茶席は「春の足音」をテーマに進行させていただきました。

3月5日は啓蟄で冬籠りの虫が這い出る頃と言われています。暖かくなり、草花が咲き始める春の情景や風情を少しでも感じていただけるようお席作りに努めました。

お床には大徳寺塔頭三玄院 長谷川寛州和尚の筆による「桃花千歳春」というお軸をかけさせていただきました。

お菓子は大手前の校章の形をした木型を使い、先生方のご指導のもと、桜や抹茶の風味をつけた和三盆糖を手作りしました。

お手前をする際は、お客様にお茶を出しするので、お稽古の時以上に何倍も気を引き締めて臨みました。心なしか、いつもよりふんわりとしたきめ細かい泡が点つたように感じます。

待合室にいらっしゃるお客様には、お待ちいただく間も楽しんでいただけるよう、春の様子を連想させる蝶々や四葉のクローバーの折り紙で装飾をしました。

さらに、中條文化振興財団様から石臼をお借りし、お客様に碾茶を石臼で挽く体験会を行い、挽きたてのお抹茶を味わっていただけるようにしました。

挽きたてを使うことで茶葉の風味や成分を最大限に引き出せるようで、その味わいや風味をより感じとっていただくことができました。

部員や先生方、先輩方だけではなく、今回は大手前丸亀中学高等学校・茶道同

好会の方々もお手伝いしてくださり、大変ではありましたが皆様のおかげで滞りなくお茶会を進めることができました。

さらに、茶道の心として知られる「和敬清寂」の精神も、お茶会を通じてより深く理解することができたように思います。

「和敬清寂」とは、精神的な安定や調和を重んじ、心を落ち着かせ、外部の雑念を振り払い、ひとつのことに集中することです。

私はこの精神から、心の静けさや集中力を保つことが、相手への敬意や思いやりに繋がることを学びました。これらの精神を今後の日常生活にも取り入れていくことで、より豊かな人間関係や充実した心を持てるようにしたいと思っています。

心静かにお茶を点て、心を込めておもてなしすることの大切さを感じました。

お茶会が終わってから、余韻が心に強く残り、家に帰って家族にお茶会の話をしたことをしました。

部長としては、忙しい中で采配が行き届かなかった部分があり、自身の未熟さを感じるところもありましたが、「楽しかったです。」や「綺麗なお茶が点っていました。」などのお言葉をいただき、充実感を覚えました。

お茶会を通じて、茶道の美しさや心の在り方について考える良い機会となりました。また、お茶会で部員と共に過ごした和やかなひとときは、部活動におけるチームワークの大切さをあらためて感じ





ました。

普段のお稽古とは異なる場所やお道具に触れ、お客様と交流する中で、自分自身の視野も広がり、この先も茶道の精神を大切にしながら、成長していきたいと思いました。

最後に部員からは次のような感想がありました。

「初めてお客様の前でお盆手前をしたので、緊張しました。その中でのお盆手前は上手くいかないこともあり、一度躓いてしまったり、お客様との会話の際に言葉が詰まったりしたことがありました。次にお客様をおもてなしする時にはより自然に振る舞えるようお稽古に励みたいと思います。お道具に関しては、お茶筌が使いやすく、お抹茶をきれいに点てることができました。」

「厳かな雰囲気緊張して試験を受けているような気持ちになりました。そこに自分のお稽古不足も加わり、亭主をうまく務めることが出来ませんでした。一番難しかったのは話の間の取り方です。話の緩急を上手くつけることが難しく、お客様に対して自分自身満足のいくおもてなしが出来なかったことが悔やまれます。今回の経験を活かし、一期一会の精神を忘れず、日々のお稽古に精進していきたいと思います。」

「私は中條文化振興財団様でお手前をす

るのは初めてで、当日をとっても楽しみにしていました。大手前高松の校内にもお茶室がありますが、それよりも静謐な佇まいのなかで心を落ち着かせてお手前をすることができ、自分の高校生活最後として、良い締めくくりとなりました。」

今回は、茶道経験一年目の部員も多く、初めてお手前を披露するという緊張感があつた中で、部員全員が楽しかったと笑顔でお茶会を終えることができたのは、部長としましては、大変嬉しく思いました。

コロナ禍でお茶会を開催することが困難な状況が長く続き、お稽古もままならず、これまで当たり前前に茶道に親しんできた身としては、苦しい時期もありました。

ですが、その時期もようやく終わりが見え、この度のお茶会を無事に開催させていただくことができました。あらためまして、お茶会開催にご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

私個人としましては、これで部活動引退となりますが、部活動で育んだ仲間との絆を支えに、今後も共に成長していきたいと思っています。

ありがとうございました。



茶室 de 若人茶会

とき 令和6年4月28日(日)

処 晴松亭

席主 高松商業高校茶道部

茶道部・部長 井口仁愛

私たち高松商業高等学校茶道部は1年生5名、2年生4名3年生3名の計12名で活動しています。昨年に引き続き、今年も中條文化振興財団にて若人茶会を持たせていただきました。

高松商業高校茶道部にはお茶室がなく、普段は教室の一角に色紙や花を飾り、簡易畳を敷いてお稽古をしています。部員のほとんどが初心者ですが、先生方のご指導のもと日々練習に励んできました。今回のお茶会は3年生にとって最後のお茶会であり、また1年生にとっては入部して間もない中でのお茶会となりました。最初は全員が緊張していましたが、席を重ねていくうちに緊張がほぐれ、楽しんでお茶会を作り上げていくことができました。

今回の若人茶会も前回と同様に広い和室を使用させていただきました。普段のお稽古では狭い部屋で少人数での動作しか経験がなかったので、広々とした和室で大人数のお客様にお菓子やお茶を運ぶ

ことができ、とても良い経験になりました。

部員で話し合って今回のお茶会のテーマを「初夏の風と水」とし、軽やかさやさわやかさを表現しました。寄り付きには「大津絵の藤娘」、待合には当代不徹齊宗匠による「薫風」を飾り、お席の前にも季節感を感じていただけるようにしました。本席は当代不徹齊宗匠で「嘉辰令月」をかけました。「嘉辰令月」はめでたい月日という意味で、お茶会ができたことは大変喜ばしいことだという気持ちを込めてこの掛物を使用しました。

本校のお菓子はオリジナルで、お茶会ごとにテーマを決めて部員がデザインしています。今回のお菓子はピンク色のつじをイメージしており、銘はつじの品種の一つである「綾姫」と付けました。菓は子どもの日にちなんで「このぼり」を使用しました。びわ床の「張り子の虎」や菓子器として使用したかぶとの絵が描かれた高坏も子どもの健やかな成長を願う気持ちを込めて選んだものです。

主茶碗は玉藻簪の赤染で勅題が「海」の時に作られたものです。この茶碗には波打つ海が描かれています。テーマである初夏の風と水の一つとして海を感じていただきたいと考えました。二碗は暁窯の「青楓流水」を使用しました。新緑が美しい季節であり、中国では楓には風の神様が宿るとされていたところから、この茶碗にしました。三碗は筆洗の形でちまきの絵が描かれたものを使用しました。菓

や高坏と同様、子どもの日にちなんだものです。

私たちは今回、昨年より2席多い6席を設けました。ほとんどのお席に10名以上の方が来てくださり、緊張はしましたが、とても嬉しかったです。また他校の茶道部員の方々もたくさん来られていて、お茶会を開くにあたっての情報交換をしたりしました。私たちもぜひ他校のお茶会に行かせていただきたいと思います。

他の部員たちのお茶会の感想を一部紹介します。

「お運びのタイミングなどみんなで声を掛け合って協力することができた。」

「自分のやるべきことを自分で考えて動くことができた。」

「上級生として下級生に指示を出したり、アドバイスをすることができた。」

「亭主をつとめた際、言葉に詰まることなく、気持ちに余裕を持つてお客様に接することができた。」

「部員同士でアドバイスをしあって、互いにできていないところをカバーすることができた。」

「昨年は自分のことで精いっぱいだったけれど、今回は周りのことにも気を配る





ことができた。」

「道具の名前などを覚えるのは大変だったけど、自分の話でお客様が笑ってくれた時に大きな達成感を感じた。」

「昨年はお盆点前だったけど、今回は風炉点前で、緊張したが、3年間の部活動の最後の締めくくりにふさわしいお茶会になった。」

今回の若人茶会で3年生が中心となるお茶会は最後となります。3年間の集大成となるお茶会になったと感じていました。当初5月末のお茶会を計画していましたが、行事の関係で予定より一か月早いお茶会となり、練習期間が大幅に短縮されるといふ状況の中、自主練習を行い、各自が自分の納得のいく練習をこなすことで無事本番を迎えることができました。実際、うまくいかないときははくやしくてつらいこともありましたが、その反面、自分の成長を感じることができ、茶道部に入ってよかったと思いました。



2年生は初の亭主とお点前の二役を任せられました。しかし、私たち3年生から見ても初めてとは思えないほど頼もしく、お茶会を盛り上げてくれたと思っています。

1年生は入部して一週間もたない時期なのに、当日とても上手にお運びやお水屋の仕事をこなしてくれて、すごく助かりました。

このお茶会を通して部員全員が成長することができたことが一番の成果だと思っています。また、一からお茶会を作り上げたことで部員同士の絆がより一層深まりました。お茶席では、お稽古不足で失敗してしまう場面も多くありましたが、温かく見守ってくださいましたお客様ののおかげで素敵な時間となりました。お茶席に来ていただいたお客様、本当にありがとうございました。

最後になりましたが楽しいお茶会の場を提供してくださった中條文化振興財団さま、熱心なご指導をくださった先生方、お手伝いに来てくださった先輩、いつも一番近くで応援してくれた家族に感謝申し上げます。

これからさらにお稽古に励み、お茶会という、交流の場、癒しの場を提供できるよう精進して参りますので、高松商業高等学校茶道部をよろしく願います。



令和5年度助成金事業

コンテンポラリー・サーカス

SAJYO-ROUKAKU

砂上の楼閣

RUTeN 吉田亜希

2年続けてRUTeNの活動をご支援いただき誠にありがとうございます。昨年度の公演を経てどのように発展させ進むべきか考えました。

特に問題点として感じたことが、汎用性に欠けるものであったことです。他の場所でも発表できる形にして続けていくことが大切だとプロジェクトを再始動しました。

現代サーカス作品を創るということ

個々の気づきのきっかけづくりや現代サーカスというものがあることを知ってほしいという所から始まっているのですが、そもそも誰に向けて創るか、自分が興味深いと思っているものを現代サーカスに置き換えて考え再構築していくってなかなか押し付けがましいのではないかと、思うてしまうこともありました。ですが考えているだけでは解決することはなく人に話して形を作り始めるしかありません。そうしてメンバーとの創作が始まるわけでサーカス創作は紛れもなく私のコミュニケーションツールの一つです。人と関わりながら好きや疑問についても話してみたら前に進むヒントが得られるというのは創作の場以外でもよくあることではないでしょうか。そして今回のタイトルである“砂上の楼閣～SAJYO-ROKAKU～”に向かって創作が始まりました。ここ数年、疑うこともなかったものが崩れていった

り無くなっていくことが何度となく起こっていてネガティブに思う反面、崩れていくことは何かそこに新たなものを構築するきっかけになるかもしれないと思い、自身がサーカスをやっている上で大きなテーマになっている重力と向き合うことと合わせて考えていくことにしました。

みんなでテーマについてそれぞれの武器を持って臨む面白さ

RUTeNというプロジェクトをしているのはサーカス的身体だけでなく他のアートと融合させることで新たなものが生まれるのではないかと興味からです。

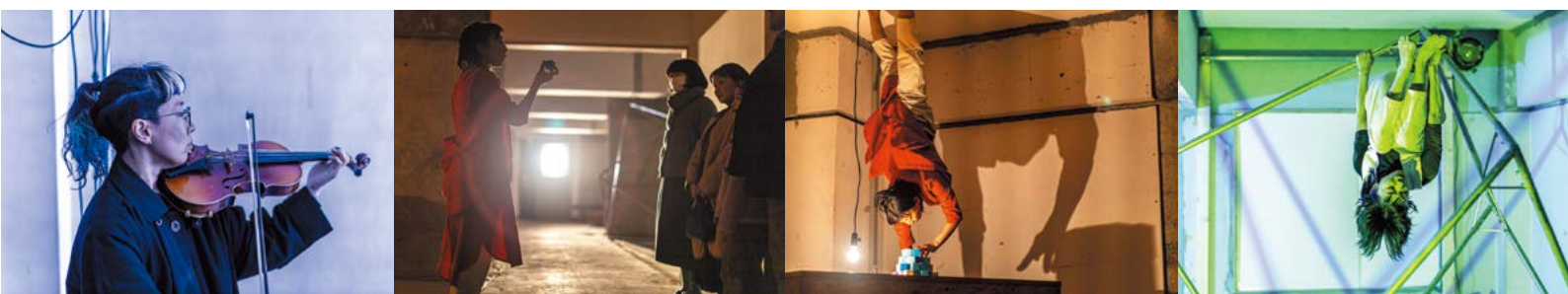
実際にメンバーと打ち合わせを始めていくと一人では考えつかないことが提案として多く出てきました。創作の中でやってみた身体と道具を通して光や影が動き観客が飲みこまれる感覚を創ることや音源の位置をシーンによって変えて空間の広がりや奥行きを創ることは、テーマに加えて観客席との境界を曖昧にすること幾つかの身体感覚に呼びかけることとても相性が良かったです。実際の環境音や空気感も取り入れながら、そこに音を置いていくことで今そこで起きていることへもフォーカス出来て生で行う意味もありました。そうやって混じりあって出来ていくサーカスにオリジナリティーや面白さがあると感じます。

出会うこと

会場は広さもなく、エアリアルリストの私にとっては天井も驚くほど低い昔ながらのアパートのワンフロアだったので、“どうしたもんか”というのが初めの印象でした。ですがオーナーさんとの会話でリノベーションは限られた空間が新しい提案でワクワクするものに変わっていく所が面白いという言葉聞き、なるほどな。それは私たちもきっと一緒だと思い借りることを決めました。視点を少し変えること、心を動かす感度を高めておくことは日常生活の中でも創作する時でもとても大切なことのように思います。そんなこともあってかここにアトリエ等を構える入居者さんは多様性とバイタリティあふれた方ばかりでした。創作をすることで出会える場や人が影響を与えてくれる素敵な出会いでした。

タイトルに込められた企み

日本語のままローマ字表記にし誰でも発音できタイトルにも文化にも興味を持ってもらいたい、そこからのコミュニケーションが生まれるきっかけにもなるであろうと二重の表記にしています。更に発展させ国内外で発表出来る場を広げていきたいと考えています。今回の経験を通してまた一つ発想も広がり、終演後のトークでは創作をして良かったと思えるご意見も聞ける機会になりましたことありがたく思います。



甘塩っぱい讃岐の味

香川県の郷土料“しょうゆ豆”をご存知ですか？

一説によると、四国八十八ヵ所巡礼のお遍路さんを接待するために煎っていたそら豆が近くにあった醤油の壺に転がり込み、あとでその豆を食べてたところ、香ばしい豆の香りと醤油がほどよく合い美味しかったのが「しょうゆ豆」の始まりと言われています。

そんなしょうゆ豆を使ったお菓子が、弘法大師[空海]誕生の地である善通寺の「銘菓 善通寺」。

空^{くう}てみる海^{かい}と書いてある包装を開けると“ぜんつうじ”と書かれた文字がなんと愛らしい。

餡は、たっぷりの砕いたしょうゆ豆を自家製の白あんと一緒に炊き込んで作っているようで、割るとしょうゆ色が馴染んだ白あんがお目見え。しょうゆ豆のつぶつぶ感、絶妙な甘じょっぱいさと、しっとりとした皮との一体感がたまりません。

そんな香川の懐かしい味の詰まったお饅頭を新茶のお茶うけにいかがですか。



お茶の風景(24)

夏いろいろ

茶席での主客の心得を説く「利休七則」の中に、夏は涼しくという下りがあります。暑い夏の陽ざしや風を気遣い、音や色で演出する茶人の精神や工夫は今も受け継がれ、夏の茶席では亭主もてなしの清涼が一碗の茶に添えられます。

しかし、何といっても夏は暑いもの、その当たり前の概念で宮澤賢治の「雨ニモマケズ」を初めて読んだ時、サムサノナツハオロオロアルキという一節に、どうして夏を寒いと形容するのかとても不思議でした。後年、東北地方独特のやませ風による夏の冷害を知り、賢治の詩の底に厳しい気候現象による稲作の不安や貧しさへのやさしい目線のあることを痛感しました。

昔から夏の日照りに苦しんできた讃岐では、ため池を築く英知や雨乞いの祈り、時としては命がけの水争いなど農村歳時記だけでなく、香川用水完成後にも高松砂漠の苦い経験があったりして、命の水の大切さを改めて考えさせられる夏の季節到来、「梅雨の晴れ間はまぎれなき夏」です。

財団行事予定
(6月～8月)

休館日水曜日

6月

- ◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日
森本義人先生
6月7日(金)・21日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生
6月8日(土)・22日(土) 午後1時～
- ◆ 和菓子講座
毎月第2金曜日 高橋初乃先生
6月14日(金) 午前10時～12時
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
6月18日(火) 午前10時～午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ。(ランチは要予約)

7月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
7月2日(火) 午前11時
- ◆ 書道教室 森本義人先生
7月5日(金)・19日(金) 午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
7月12日(金) 午前10時～12時

- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
7月13日(土)・27日(土) 午後1時～
- ◆ 7月月釜 五人様茶会
「厳しい暑さの夏に向けて、清々しいひとときを皆様と共有できれば」と思って釜をかけさせていただきます。と席主のメッセージを添えてご案内いたします。
日時 7月14日(日)
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)
濃茶 石州流宗家高松会 上里宗美
薄茶 石州流宗家高松会 寺岡宗由
会費 8,000円(濃茶・薄茶・点心席)
料金を改定させていただきます
入席時間(各席6名・2時間15分を予定)
第1席 9時 第2席 10時30分
第3席 11時15分 第4席 12時45分
第5席 14時15分 (各席A席・B席)
申込 電話受付 6月10日(月) 10時～
- ◆ 月に一度の喫茶室
7月16日(火) 午前10時～午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ。(ランチは要予約)
- ◆ 茶室 de 若人茶会
7月27日(土)
処 晴松亭(当財団茶室)
席主 高松工芸高校茶華道部
会費 一般700円・学生300円

入席時間(各席15名)

第1席 9時30分 第2席 10時30分
第3席 11時30分 第4席 13時
第5席 14時 第6席 15時

- ◆ あ・うんの数寄講座
「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」
7月28日(日)
講師等詳細は、最終ページに記載

8月

- ◆ 書道教室 森本義人先生
8月2日(金)・16日(金) 午前10時～12時
- ◆ あ・うんの数寄講座
「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」
8月3日(土)・4日(日)・24日(土)・25日(日)
講師等詳細は、最終ページに記載
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
8月9日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
8月10日(土)・24日(土) 午後1時～
- ◆ 夏季休館
8月12日(月)～15日(木)
- ◆ 月に一度の喫茶室
8月はお休みさせていただきます。
お申込みは財団まで。急遽中止になる事もあります。

表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

7/14 東讃四季茶会 席主：久保宗清
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 TEL (0877) 24-3315

6/23 和と輪のつどい 席主：多度津分会
地域交流センター2F 600円 9:30～14:00

茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

6/16 高松市茶華道協会文化祭「茶会と生け花展」
席主：百々路宗恵 玉藻公園披雲閣・檜の間
2,000円 9:00～15:00(受付14:30)

〈淡交会高松支部月釜〉時間指定

大西・アオイ記念館 800円 9:30～15:00

6/2 席主：北村宗純

7/7 席主：平池宗秀

9/1 席主：前川宗奈

煎茶道三癸亭賣茶流高松仙友会 TEL (087) 879-2186

7/21 由佐城月釜茶会 席主：金澤志保
高松市香南歴史民俗郷土館2F
前売券700円・当日券800円 9:30～14:30

武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

7/7 香川官休会 席主：嶺松会
御坊町無量寿院 1,000円 9:00～15:00

東讃茶道懇話会 TEL (087) 898-0391

〈池戸西徳寺〉

6/9 月釜 席主：石原幹子(石州流) 800円 9:00～15:30

8/4 第54回七夕茶会
席主：大社宗衣(裏千家流) 1,000円 8:00～15:00
茶せん供養 7:30～

大西・アオイ記念財団 TEL (087) 880-7888

7/28 大西・アオイ花茶会 席主：茶道石州流宗家高松会
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～

高原水車 TEL (090) 4336-8856

6/29、7/27、8/31 水車祭り(呈茶) 席主：森
無料 10:00～15:00

高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

〈由佐城月釜茶会〉第2研修室(和室)

前売券700円・当日券800円 9:30～14:30

6/16 席主：宮田宗靖(茶道石州流宗家高松会)

7/21 席主：金澤志保(煎茶道三癸亭賣茶流)

8/18 席主：中浦宗志、大手前高松中学・高等学校茶道部
(石州流讃岐清水派石州会)

料亭二蝶 TEL (087) 851-7166

7/27、28 第4回芙蓉茶会 席主：山本守嶋 栗林公園掬月亭
8,000円(薄茶・点心) 6:00～(1日4席)

● 財団からのお知らせ

第10回 あ・うんの数寄講座
「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」

本年度の夏期講習の日程が決まりましたのでご案内致します。

会場 財団茶室「晴松亭」広間

時間 ①午前の部 10時30分～／②午後の部 14時～ の2回

定員 各回20名

会費 10,000円(5回セット券) 高校・大学生は5,000円

申込 7月1日(月)午前10時より電話にて受付開始

参加ご希望の方は、事務局までお申込み下さい。

お申込みの際は、午前か午後のどちらかのコースをお選び下さい。



第1回 7月28日(日)

梶山 博史(大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理)
「江戸時代の和物茶碗—知られざるその魅力—」

第2回 8月3日(土)

藤丸 正明(株式会社 地域活性局 代表取締役)
「地域と茶の湯」

第3回 8月4日(日)

武内 範男(日本文化史研究家)
「茶席の掛物—墨蹟—」

第4回 8月24日(土)

鈴木 宗博(裏千家教授・和菓子研究家)
「茶席の和菓子で楽しむ」

第5回 8月25日(日)

岡田 直矢(茶道研究家)
「益田三兄弟(鈍翁、非黙、紅艶)について—一人と茶道—」

編集後記

香川には有形無形の文化財がたくさんあります。その一つ、坂出の国宝に指定されている神社の建物が落雷により焼失したことは、記憶に新しいことですが、この建物の再建には多額の費用が必要のため、クラウドファンディングで資金を調達しています。

また、元旦に能登地方を襲った大地震で破壊された仏像を修復している方がいます。小さ欠片まで丁寧に泥や汚れを取り除き、元の形へと戻していく、とても繊細な作業です。何か月かかるかわからないけれど、石川県だけでなく、富山県も回るとおしゃっていた。それも、ボランティアで。

公の援助のみならず、人の善意を受けながらも、後世につないでいくことの大切さを考えさせられました。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団編集部

TEL (087) 826-1335

FAX (087) 826-1221

info@chujo-zaidan.or.jp